

新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
この度、新たな検査項目の受託開始について、下記の通りご案内いたします。
健康と医療の未来に貢献すべく、より良い検査サービスのご提供に努めてまいります。
謹白

記

■ 実施日 2022年2月28日(月) ご依頼分より

■ 新規項目内容一覧

項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査 方法	基準値 (単位)	備考
OE00 1	HIV-1/2特異抗体 5F560-1430-023-190	血清 0.5	S09 ↓ A00 (X)	冷蔵 (7日)	3~5	660 ※6	イムノ クロマ ト法	陰性	重 他項目との重複 依頼は避けてく ださい。 確認検査(イムノ クロマト法)をご 依頼の際には、改 めて採血しご提 出ください。

※6：免疫学的検査判断料

今回の新規項目受託開始に伴い、下記項目の受託を中止させていただきます。

項目コード	項目名	受託中止日
6831 4	HIV-1抗体	2022年3月31日(木) ご依頼分をもって 受託中止
2525 0	HIV-2抗体	



● HIV-1/2特異抗体

HIV-1/2の抗体確認検査に有用な検査です。

HIVはAIDS（後天性免疫不全症候群）発症の原因ウイルスで、持続感染の末に宿主の免疫システムを破壊し免疫不全を引き起こすことが知られています。その結果、発熱、疲労感、体重減少及びリンパ節腫脹等の全身症状に始まり、機能不全を主とした細胞性免疫不全を基調とし、原虫、真菌、ウイルス、細菌などによる日和見感染あるいはカポジ肉腫のような悪性腫瘍を合併します。

本項目は日本エイズ学会・日本臨床検査医学会の標準推奨法（参考文献参照）で、HIV-1/2スクリーニング検査で陽性または判定保留となった場合に実施する抗体確認検査法です。

従来ウエスタンブロット（WB）法による抗体確認検査法では低い感度や交差反応による判定困難な事例が知られ、本項目で検出感度の改善およびHIV-1とHIV-2同時測定が可能となり、HIV抗体確認検査として有用です。

▼疾患との関連

HIV-1, 2感染症
AIDS（後天性免疫不全症候群）

▼関連する主な検査項目

HIV抗原・抗体
HIV-1 RNA定量

▼検査要項

検査項目名	HIV-1/2特異抗体
項目コード	OE00 1
検体量	血清 0.5 mL
容器	S09→A00 (X) ポリスピッツ
保存方法	冷蔵保存してください
所要日数	3~5 日
検査方法	イムノクロマト法
基準値	陰性
報告範囲（単位）	陰性、判定保留、陽性〔親展報告〕（なし）
桁数	なし
検査実施料	660点 （「D012」感染症免疫学的検査「46」「49」）
判断料	144点（免疫学的検査判断料）
備考	重 他項目との重複依頼は避けてください。 確認検査（イムノクロマト法）をご依頼の際には、改めて採血しご提出ください。

●参考文献

日本エイズ学会・日本臨床検査医学会：診療における HIV-1/2感染症の診断ガイドライン2020版
Moon H-W, et al : PLoS ONE 10 (9) e0139169 : 1~7, 2015. （臨床的意義参考文献）
Kondo M, et al : PLoS ONE 13 (10) e0198924 : 1~10, 2018. （検査方法参考文献）